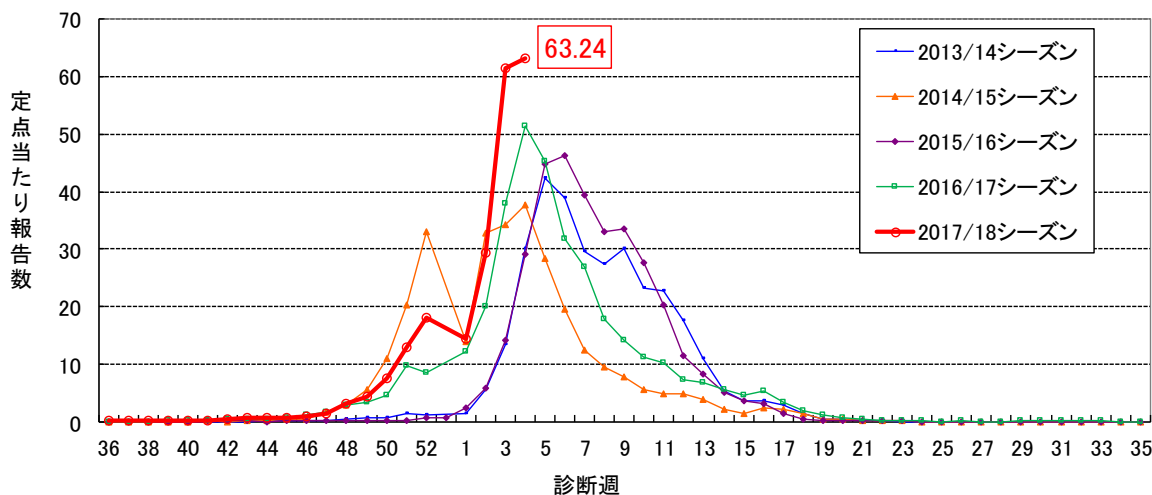


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

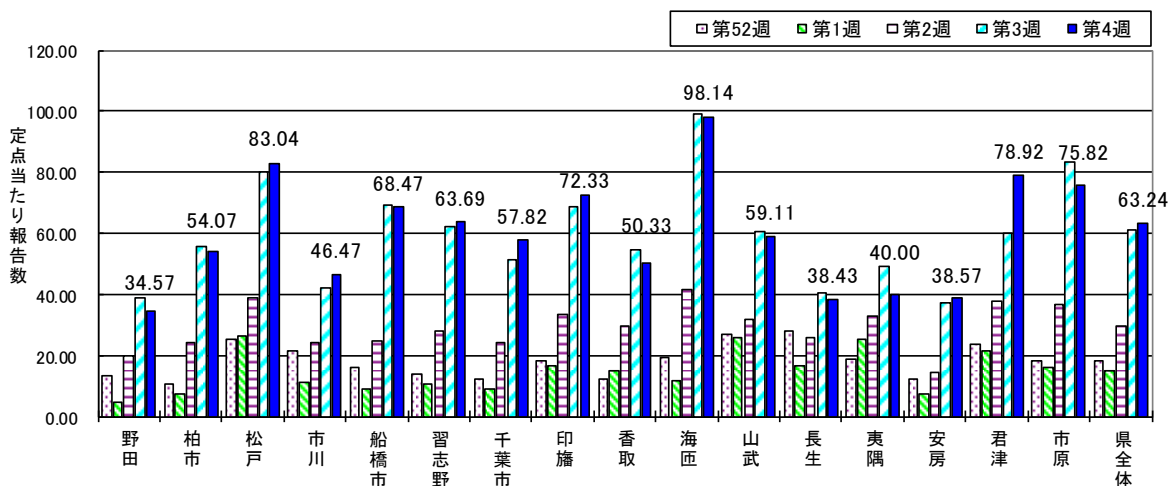
2018年第4週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は63.24（人）となり、2週続けて定点当たり報告数60を超えた（図1）。

図1：2013～2018年第3週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



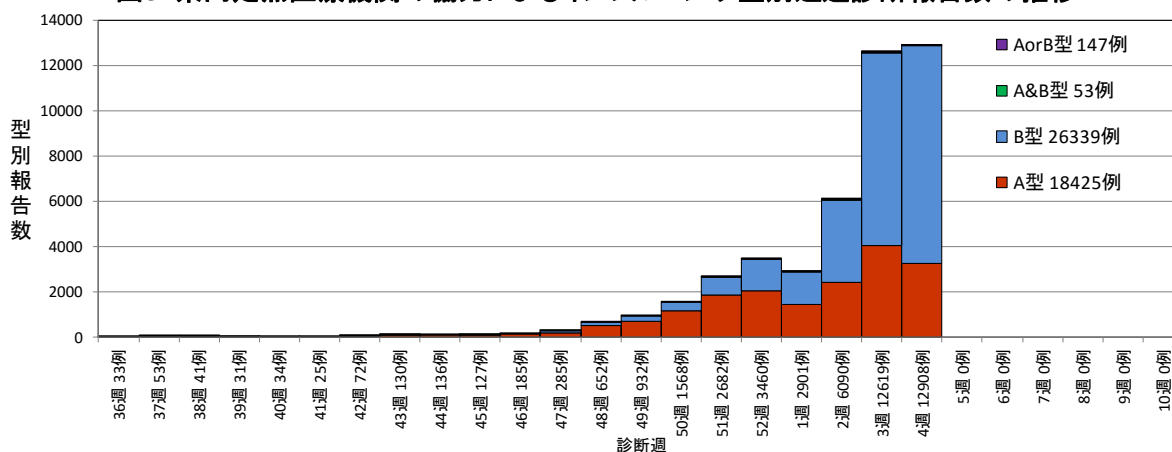
県内16保健所管内（千葉市、船橋市および柏市含む）のうち、7保健所管内において前週より報告が増加した。県レベルでの定点当たり報告数（63.24）を超える保健所管内は、報告の多い順に海匝（98.14）、松戸（83.04）、君津（78.29）、市原（75.82）、印旛（72.33）、船橋市（68.47）、習志野（63.69）であった（図2）。

図2：直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移（保健所別）



年齢群別報告割合では、5～9歳（33.4%、前週31.2%）、10～14歳（19.2%、前週19.2%）、0～4歳（15.4%、前週13.7%）が多かった。第4週の県内の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果12,908例の報告は、A型3,266例（25.3%）、B型9,589例（74.3%）、A and B型11例（0.1%）、A or B型42例（0.3%）であった。前週と比較してA型の報告数は減少に転じた（図3）。

図3: 県内定点医療機関の協力によるインフルエンザ型別迅速診断報告数の推移



2017/18 シーズン合計では、44,964 例中 A 型 18,425 例 (41.0%)、B 型 26,339 例 (58.6%)、A and B 型 53 例 (0.1%)、A or B 型 147 例 (0.3%) となった。

基幹定点 (9 医療機関) からのインフルエンザ入院サーベイランス報告においては 79 例の報告を認め、前週 (92 例) から減少した。年齢群別では 80 歳以上 24 例、70 代 8 例、60 代 15 例、50 代 5 例、40 代 4 例、30 代 1 例、10 代 3 例、5～9 歳 10 例、1～4 歳 5 例、1 歳未満 4 例であった。